

# 道民講演会 アイヌと大地と自然災害

右の二次元バーコードから**タブレット・スマホ**  
で**誰でも無料**で視聴できます！



You**Tube**による動画配信 (約2時間)

令和3年9月12日(日)9:00～16日(木)24:00

大会WEBサイト <https://japan.landslide-soc.org/2021hokkaido.html>

## 第1部 約1時間

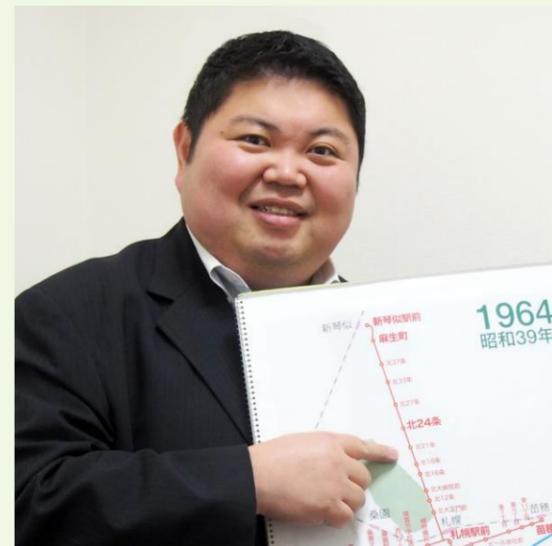
### 「北の大地は語る」

株式会社あるた出版

タウン情報誌『O.tone』編集デスク

和田哲 (わださとる)

1972年札幌市生まれ。市電沿線で電車を毎日見ながら育つ。日本大学法学部卒業後、広告代理店を経て現職。札幌の歴史を雑誌連載やテレビ、ラジオなどで発信中。著書に「古地図と歩く札幌圏」(あるた出版/2020年)。



## 第2部 約1時間

### 「北海道の先史時代における人類と自然災害」

札幌学院大学人間科学科 特任講師

大塚 宜明 (おおつか よしあき)

「遺跡」や「遺物」の丹念な調査を通して、旧石器時代から縄文時代の北海道の人々の暮らしを明らかにする。野外調査と研究室での分析の両方を研究の基礎におき、石器群と人々の生活の関係を追及する若手研究者の代表。近年は、斜面変動が人類に与えた影響について関心をもつ。



平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震から3年が経とうとしています。震源地付近の地域では、震度7という、かつてないほどの揺れに襲われただけでなく、斜面では無数の地すべりが発生し、多くの方が被災されました。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、さらなる復興をお祈りいたします。

(公社)日本地すべり学会では、毎年「研究発表会」を開催しており、今年は9月15～16日に北海道大会を開催いたします。当学会では社会貢献の一端をかね、北海道民の皆様への啓発を目的とし、本会の開催期間中に講演会を行います。例年であれば、会場に皆様を招いてという形ではありますが、今年は新型コロナウイルスの感染状況から、本会のWEBサイトからのYouTubeによる動画配信とすることにいたしました。道民講演会という名目ではありますが、本会のWEBサイトを訪れたすべての方が閲覧できる形式となります。

第1部では、札幌の歴史や古地図をひもとく和田哲氏にアイヌ語の地名とその由来と災害との関係について講演いただく予定です。また、第2部では、北海道の旧石器時代以降の人々の暮らしを研究する大塚宜明氏に、自然災害が北海道の人々に与えてきた影響について講演いただく予定です。

私たちの暮らす北海道は、地震だけでなく、地球温暖化に伴う豪雨によっても、地すべりなどの斜面災害リスクが高まっており、私たちは災害について正しく理解し、皆が防災意識を高めていくことが大切です。本講演会は、こうした防災意識を啓発するうえで、皆様にお役立ていただけるものと思います。

## 《 講演概要 》

### 第1部 「北の大地は語る」

7年前に広島で大きな土砂災害があった場所が、古くは「蛇落地悪谷」という地名だったことが話題になりました。過去の災害を地名に残し、後世に伝えようという先人の思いは、残念ながら伝わりませんでした。

自然と密接な生活を営んできたアイヌ民族は、川の特徴や地形、植物など、その土地の自然を熟知し、それにちなんだ呼び方で場所を表していたことが知られています。現在、北海道の地名のほとんどはアイヌ語地名が由来ですが、音に漢字を当てたものが多く、その意味にはあまり関心が示されなかったようです。しかし、アイヌ語地名の中には過去の洪水や土砂災害、噴火などの災害の経験を伝えようとするものや、地形を見て警戒を呼び掛けるものが少なくありません。文字を持たないので、記憶やメッセージを地名に託して子孫に伝え、子孫を守ろうと考えたのではないのでしょうか。

昭和の時代に、縁起が良く不動産が売れそうな名前に変えられ、忘れられたアイヌ語地名もあります。私たちはいま一度、自分が暮らす土地がアイヌ語でどう呼ばれていたか、そこにどんな意図が込められているのかに関心を持つ必要があると思うのです。

### 第2部 「北海道の先史時代における人類と自然災害」

近年、日本列島では集中豪雨や土砂崩れなどの自然災害が頻発し、そうした状況に不安を抱いたり、どのように対処していくべきか考える機会が増えています。

文字記録が残されていない先史時代の人々も長い歴史の中で多くの自然災害を経験してきたことが、これまで進められてきた考古学の調査から明らかになってきています。火山災害、地震、津波、土砂崩れなどの大規模な自然災害は、当時の人々の生活にも大きな影響を与えてきたのです。しかし、人々に与えた影響は、果たしてネガティブなものだけだったのでしょうか。

本講演では、私が現在取り組んでいる北海道置戸町の考古学の調査成果を材料に、先史時代の人々と自然災害とのポジティブな関係についてお話しします。今回の講演を通して、「人間による制御が難しい自然災害にどのように対処していくべきか」という重要な課題に対する新たな視点を考えていきたいと思っております。